

第 126 回緩和ケアチーム抄読会

2013 年 5 月 22 日

田中康代

緩和ケア病棟から自宅へ退院可能な患者の予後予測因子に関する後ろ向き研究
Palliative Care Research 2013 ; 8(1) : 107-15

【背景・目的】

国立がん研究センター東病院、緩和ケア病棟（PCU）では、在宅支援診療所と連携し PCU の急性期運用に努めている。今回、PCU から自宅への退院の予測因子を探索した。

【方法】

2010 年 10 月 1 日から 2011 年 9 月 30 日に国立がん研究センター東病院 PCU に入院したがん患者について、入院診療録から情報を収集した。2 回目以降の入院または performance status（PS）4 の症例は解析から除外した。転帰を退院群と死亡・転院群に分け、ロジスティック回帰分析を実施した。

【結果】

①全体の解析

2010 年 10 月から 2011 年 9 月の 1 年間の入院患者は延べ 377 件であった。

期間中に入院が複数回数認められた 5 名（3 回入院）、34 名（2 回入院）に関しては 2 回目以降の入院は解析から除外した。PS4 の 110 件（自宅退院、死亡・転院 110 件）も除外した。

最終的には解析対象患者は 223 名であった。（表 1 参照）

自宅への退院：63 名（28.3%）、転院：18 名（8.1%）、死亡：142 名（63.7%）

（223 名の患者背景）

平均年齢：66.3 歳（範囲 30~93 歳）、男 120 名、女 103 名

在院日数中央値 17 日（範囲 2~129 日）

入院経路：自宅 123 名、院内他病棟からの転棟 90 名、他院からの転院 10 名

入院時 PS1：23 名、PS2：64 名、PS3：136

入院 24 時間の経口摂取カロリーの中央値 450kcal（範囲 0~1900kcal）

入院時のオピオイド：経口モルヒネ換算中央値 30mg（範囲 0~3600mg）

入院 3 日以内のせん妄：有り 97 名（46.4%）、無し 112 名（53.6%）

②退院群と死亡・転院群との比較

自宅への退院に影響する因子（単変量解析）表 2 参照

年齢、自宅からの入院、PS 良好（1~2）、入院時脈拍数 100 未満、入院 24 時間摂取カロリー 450kcal 以上、

入院 3 日以内のせん妄あり、呼吸困難なし、倦怠感なし、腹部膨満感なし、浮腫なし

に有意差を認めた。

自宅への退院に影響する因子（多変量解析）表 3 参照

転帰の退院に対してロジスティック回帰を行った。

自宅からの入院、PS1~2、入院 24 時間内の摂取カロリー \geq 450kcal 以上、呼吸困難なし、腹部膨満感なし、

が退院への独立した因子であった。

【考察】

M.D.Anderson Cancer Center の急性期緩和ケア病棟における検討の報告の中で PS 不良は死亡の独立した予測因子であった。わが国での先行研究においては PS 不良が PCU からの退院を困難とする独立因子であった。そのため、今回の検討においては、PS4 の症例は解析から除外した。実際に PS4 の症例で退院可能であったのはわずか 5/110 例（4.5%）であったため、PS3 以下、つまり自分で動ける方を対象として退院可能な因子を探索した。退院支援を考えるうえで、より現実に即した検討であると考えられる。

我が国における過去の検討においては、早期に PCU に紹介されることや、PS が良好であること、摂食が保たれていること、嘔気がないこと、放射線治療中でないこと、家族に対する不安や気がかり、などが自宅への独立した因子であった。

本研究においては、PS が良好であることや摂食が保たれていることについては同様の結果が得られた。一方、今回の検討では、嘔気存在は退院に影響を認めず、呼吸困難がないことや腹部膨満感がないことなどが退院を促す要因であった。いずれも後ろ向き解析であり、問題点としては、症状や家族の不安の評価について客観的な指標やツールを用いていないことなどが挙げられ、今後は前向きに評価する必要がある。

今回の検討に置いては介護者の数は退院に影響を有さなかった。これはがん患者は死亡前 1~2 カ月までは比較的活動性や症状は落ち着いていることが多いが、それ以降に急激に活動性が低下し、様々な症状が出現することが示されており、そのようながん患者の特徴が影響していると考えられた。

本研究は単一施設における入院診療録からデータを収集した後ろ向き研究である。家族背景や就労、経済的状況などを含めた社会的な状況についての情報が得られていないために、本研究には限界があることに留意する必要がある。

【結論】

今回の検討においては、自宅からの入院、PS2 以下、Spo \geq 297%以上、入院 24 時間の摂取カロリー \geq 450kcal 以上、呼吸困難なし、腹部膨満感なしが緩和ケア病棟から自宅退院を可能にする要因であることが示唆された。

今後は前向き研究を実施することで、それらの情報も含め収集し、今回の結果の妥当性について検討する必要がある。